



◀焼失前のみこしを中心に集まる材木町の皆さん  
(昭和9年、裁判所前にて。個人蔵)



この付近は、宇都宮城の北西に位置した町人町で、藩の御用材を商う材木問屋が軒を並べていたことが、町名の起りと伝えられています。また、町人の住んだ材木町から武家の屋敷へと通じる門があり、材木町木戸と呼ばれていました。大官町（現在の大寛町）に住む武士が、城内に通う朝晩だけ門が開き、日中は閉じていたことから、不明門とも呼ばれていました。現在の材木町通りを拡張する際に、城内へ続いていいたと思われる抜け道の跡が何本

か発見されたそうです。また、この辺りは、かつては住民がとても多く、学校では1クラス50人以上で、同級生は300人以上いました。そんな子どもたちの遊び場は、材木町聖天様と呼ばれた広い社の敷地内でした。その後、戦災で町の半分以上が焼け、材木町聖天様の社も、代々伝わってきたみこしも曳き太鼓も皆、焼失してしまいました。現在では、老舗の材木店やしょうゆ屋などが閉店したり、住民が引っ越したりして、以前に比べて住民は少なくなってしまうことが、地域の協力により、新しく作ったみこしと曳き太鼓を保存するための倉庫を建設予定です。わが町の文化を次の代へとつないでいきたいと思っています。



古いまちの呼び名と  
こぼれ話を紹介します



西1丁目  
丸山 浩一さん

## はつらつ宮っこ

今、輝いている市民

世界大会優勝

未来に羽ばたく日本のエース

国本中学校 中山 貴史さん

「代表選手を選ぶセレクションで力を出し切れたので、驚いたというより、うれしい気持ちが強かったです」と、笑顔で話す中山貴史さん。今年8月にハワイで開催された2014世界少年野球大会の全日本代表16人に選出され、世界大会4連覇に貢献しました。現在メジャーリーグで活躍するダルビッシュ有選手もかつて選出されたことがある大会での快挙です。中山さんが全日本代表に選出されたのは、2012年以来2度目。左投げ左打ちで、180センチメートルの長身から投げ下ろす角度のある速球が魅力の中山さん。普段は県央宇都宮ボーイズに在籍し、投打の中心選手として、エースで4番を任されています。

中山さんが野球を始めたきっかけは、2人のお兄さんの影響でした。物心が付いた頃にはいつもバットとグラブを持って遊びに出掛けていたそうです。「投手として強打者を打ち取ること、そして、チーム全員で一つの勝利に向かって挑んでいくことが、野球の醍醐味だと思います」と笑顔の中山さん。今後の目標について、「まずは高校野球でレギュラーになって、甲子園に行きたい。そして将来はプロ野球選手になりたい」と力強く語ります。「辛く大変な練習も、プロになって活躍したいという夢があるから頑張れる。投手としてだけでなく、打者としても挑戦してみたい」と、壮大な夢を語る中山さんの今後の活躍から目が離せません。

